日本語を学ぶことの楽しさ

C5　サイナー

　皆さん、こんにちは。私はモンゴルから参りましたサイナーと申します。2021年の５月に日本に来て、今、沼津高専の物質工学科に在籍しています。今日は、私が日本語を勉強している時、面白いと思ったいくつかの点と日本語を学ぶ時どうやって楽しめたかについて話したいと思います。
　私が日本語に初めて接したのは高校１年生の時でした。その時、学校に日本人の先生が来て、無料で日本語を教えていると聞いて、言語にあまり興味なかった私は一応日本語を体験してみようと考えました。そして、初めての授業に参加してみたら、挨拶について授業でした。「こんにちは」から初めて「ありがとうございます」まで様々な挨拶について教えてもらって、自分を紹介することも習いました。しかし、その中によくわからない言葉が一つあったのは「です」という言葉でした。「私の名前はサイナーです。」ということを初めて聞いて、「え、ですとは何？」、「私の名前はサイナー」で終わればいいのに、なぜわざわざ「です」つけるのだろうかととても驚きました。そんなに驚いた理由は私の母語であるモンゴル語にそのような表現がないからでした。自分の母語にない言葉を見て驚くのが当然ですが、母語と違うからこそ、日本語が面白いと思いました。英語を勉強する時にも見たことがないその「です」という言葉は、私の日本語を勉強するきっかけになり、そのときから少しずつ日本語を勉強し始めました。
　高校を卒業した後、私は日本に来て、日本語学校で勉強するようになりました。その学校で毎日日本語を学習して、日本語レベルが速やかに上昇していましたが、少し複雑で学びにくかったのは助詞の使い方です。例えば、「は」と「が」の使い分けです。最初は、主語の後からどちらを使っても同じではないかと思っていて、試験などで適当に書いたらたくさん間違ってしまったことがあります。他には、なぜ道「に」歩くではなくて、道「を」歩くというのかとか、同じ意味なのになぜ会社「に」務めると会社「で」働くというのかとか色々な例があります。しかし、正しい助詞を使うというのは、まるでパズルをやっているのと同じだから、それらを勉強するのは私にとってとても楽しかったです。

　日本に来てからもう４年目だが、今でも正しく使えないのは日本語の敬語です。敬語の中で尊敬語、謙譲語、丁寧語などがあって、正直にいうと、私はできるだけ敬語を使うのは避けています。なぜなら、敬語の使い方が間違えると、話している相手に対して失礼だと思うからです。丁寧語はまだ大丈夫だが、尊敬語と謙譲語を混合してしまうことが多いです。しかし、敬語の使い方は日本人にとっても難しいとクラスメートの話を聞いて、もし私が日本人よりも敬語を使えるようになったら格好いいではないかと思うようになったので、これからも積極的に敬語を学びたいと思います。
　日本語を勉強している時は、このように色々なことがありましたが、私は「大変だ。困った。難しい」と思ったことは一切なく、その代わりに「面白い。楽しい。新しいことを学んで何よりだ」と思っていました。そのような気持ちで日本語の勉強をしたのは私の言語学習に対する思いを逆転し、新しい言語を恐れなく勉強することができるようになりました。

　皆さんも新しい言語を学ぶときは、大変だと思う前に、その言語を学んでどこまでたどり着くのか楽しみだと考え、面白さを感じることができれば、どんな言語でも、たとえ日本語でも苦労せずに学べると思います。
　ご清聴ありがとうございました。